

健康診断(特定健診)に歯科的検査項目を導入したアプローチの概要

◎ (公財) 郡山市健康振興財団 宗像ゆかり
奥羽大学歯学部口腔衛生学講座 瀬川 洋
郡山医師会 原 寿夫
郡山歯科医師会 永井 光男

【目的】

口腔ケアの重要性の啓発、定期的な歯科受診の推奨及び早期受診による歯周病の重症化予防の観点から新たに健康診断に歯科的検査項目を導入することにより、医科歯科連携を推進するための事業を試みたので、その概要を報告する。

【方法】

本事業に同意が得られた20~70歳の郡山市健康振興財団健康診断受診者を対象に、予め、健康診断を申し込んだ事業所や個人へチラシで検査を行う事を事前に周知して、健康診断のフロアにもチラシを掲示した。健康診断の当日は、待ち時間に本財団職員が対象者へ声を掛け、自記式質問紙による生活習慣調査、ペリオスクリーン®による歯周病スクリーニングを行った後、受診者には歯周病やむし歯予防のリーフレットを配布した。後日、健康診断の結果通知書に歯周病スクリーニング検査の結果を同封して、スクリーニング陽性者には受診を促す通知、受診勧奨券及び受診報告書を送付した。

【結果】

2017(平成 29)年度、ペリオスクリーン®による歯周病スクリーニングの年齢対象者は2,261名で、実施者は2,175名だった。153名が検査を希望しなかったが、67名がチラシ等により受診を希望した。ペリオスクリーン®の結果は、陽性が1,329名(61%)、陰性が846名(39%)で、陽性1,329名中、かかりつけ歯科医院の受診者は91名で受診率は6.8%だった。

【結論】

これまで健康診断では歯科的項目の導入や口腔ケアについて、体系的なアプローチを実施していなかったが、歯周病スクリーニングなどの歯科的健診項目の導入は健診受診者の関心は高く、歯科受診・受療の行動変容に寄与すると考えられる。また、従来、受診に際しては、待ち時間に対するクレーム等があったが、歯科的健診項目の導入により、待ち時間が解消され、受診者に好評であったことから、今後も継続し、より多くの受診者が歯科の定期受診等に繋がるような方策を検討していきたい。